

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成27年度病虫害発生予報第3号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

予報第3号

**カキのフジコナカイガラムシの防除を徹底しましょう。**

5月5半旬の調査で、フジコナカイガラムシは平年に比べ発生が多く認められました。薬剤散布の効果を上げるには、散布方法と時期が重要です。

この虫は果実のヘタや粗皮の隙間等に隠れています。薬剤のかかりムラがないよう十分な量を丁寧に散布して下さい。

防除時期は、第1世代幼虫がふ化する6月上旬～中旬頃です。薬剤は、残効を考慮し約10日間隔で2回散布して下さい。フェロモントラップ調査をしている地域では、より正確な時期が予測できますのでその情報を参考にして下さい。



フジコナカイガラムシふ化幼虫(防除適期はこの齢期)  
※写真のフジコナカイガラムシはホガチャで飼育

**茶の病害多発に注意しましょう。**

4月上～中旬と5月中旬に雨が多かったため、山間地だけでなく平坦地でも炭疽病やもち病の発生が目立ちます。特に梅雨時期に入ると炭疽病の多発が懸念されます。防除適期は二番茶の萌芽～一葉期前です。また、日当たり・通風を良くする等の発病しにくい茶園管理に努めましょう。



炭疽病



もち病

<予想される向こう1か月の天候（平成27年5月30日～平成27年6月29日）>

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並か高く、3～4週目はほぼ平年並でしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み

（福岡管区气象台 平成27年5月28日発表抜粋）

6月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ	少 並	少 並	並 やや多
ナシ	黒星病	多	多	やや多
カキ	炭疽病 フジコナカイガラムシ	並 多	並 多	並 多
果樹共通	チャバネアオカメムシ	少	—	少
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ	多 少 少	多 少 少	多 並 並

\*果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいため前年比としている

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、

**「少、やや少、並、やや多、多」の5段階**で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、**少発生（－）**、**やや少（－～±）**、**並発生（±）**、**やや多発生（±～＋）**、**多発生（＋）**として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

発病葉率 0% (平年 0.3%、前年 0%)

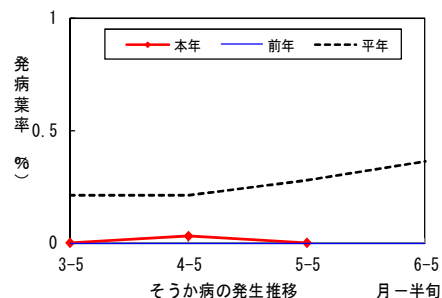
発生ほ場率 0% (平年 22.9%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病葉を除去し、幼果期の防除を徹底する。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



2 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 6.8% (平年 9.0%、前年 3.4%)

発生ほ場率 63.6% (平年 51.9%、前年 45.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

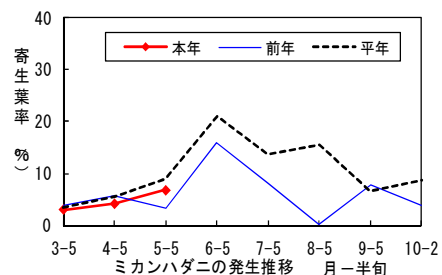
(3) 防除上注意すべき事項

ア 高度精製マシン油乳剤は、発生密度が高い場合には十分な効果が得られないので、発生が多くなる前に散布する。

なお、落花期以降にデラン剤を散布した園地では、薬害が生じる恐れがあるので使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

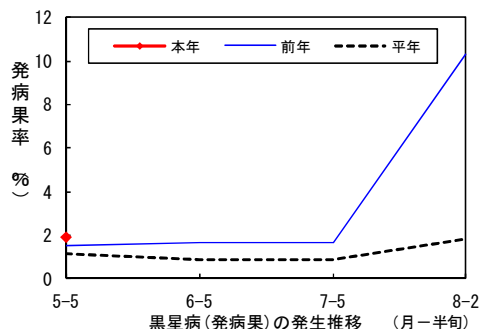
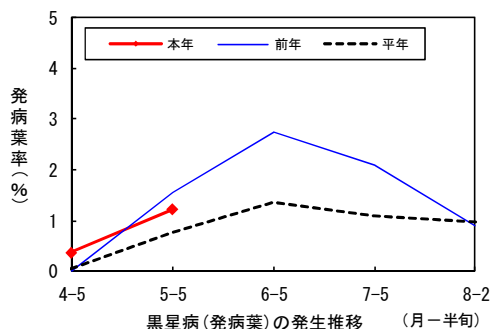
ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

発病葉率 1.2% (平年 0.8%、前年 1.6%)

発生ほ場率 63.6% (平年48.1%、前年 63.6%)

発病果率 1.9% (平年 1.1%、前年 1.6%)

発生ほ場率 45.5% (平年 37.4%、前年 45.5%)



イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 伝染源となる罹病葉や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。
- イ 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ウ 薬剤防除にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤を混合する。ただし、有機銅剤は効果が低下するため混用しない。

## 【果樹：かき】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

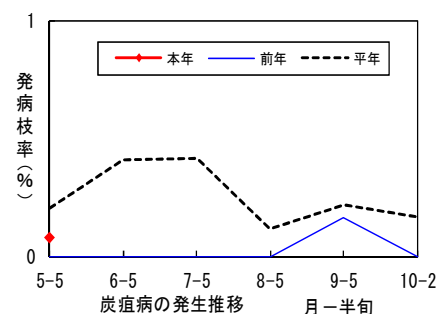
発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

- ア 5月5半月調査の結果、発生量は平年並であった(±)。  
発病枝率 0.1% (平年 0.2%、前年 0%)  
発生ほ場率 8.3% (平年 11.4%、前年 0%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

### 3) 防除上注意すべき事項

- ア 伝染源となる罹病枝や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。



### 2 フジコナカイガラムシ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

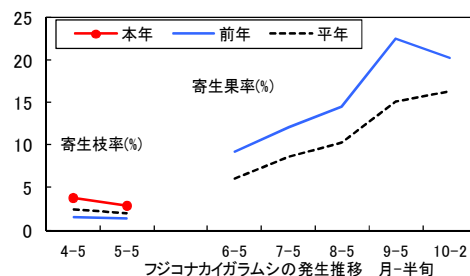
#### (2) 予報の根拠

- ア 5月5半月調査の結果、発生量は平年より多かった(+)  
寄生枝率 2.9% (平年 1.9%、前年 1.3%)  
発生ほ場率 66.7% (平年 48.8%、前年 25.0%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 第1世代幼虫の孵化時期(6月上旬～中旬)に約10日間隔で2回防除を実施する。
- イ 薬剤がかかりにくい部位に寄生しているので、散布むらがないよう丁寧に散布する。
- ウ 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する。防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病害虫・雑草防除の手引き』を参考にしてください。

URL : [http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/137505\\_50502708\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/137505_50502708_misc.pdf)



## 【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

### (1) 予報の内容

発生量：前年より少、前々年並

### (2) 予報の根拠

- ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.9頭(前年4.8頭、前々年0.7頭)で、前年より少なかった(-)。
- イ 5月1半月～5半月までのフェロモントラップによる誘殺虫数は、85頭(前年5,626頭、前々年509頭)(調査地点：筑紫野市)で前年より少ない(-)。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。
- イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。

## 【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	少	少	並	・適期防除を心掛ける。
なし アブラムシ類 ハダニ類	並 並	並 並	並 並	・薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
かき うどんこ病 ハマキムシ類	並 やや多	並 やや多	並 やや多	・うどんこ病多発園では8月下旬に防除を行う。 ・フェロモントラップによるハマキムシ類の防除適期は6月下旬～7月上旬頃と予想される。 ・ハマキムシ類幼虫は葉と葉が重なった部分や、ヘタと果実の間に多く潜んでいるため、薬剤はかかりムラがないよう十分量を丁寧に散布する。

## 【茶】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

発病葉数 2.9葉 (平年0.2葉、前年0.1葉)

発生ほ場率 100% (平年11.3%、前年22.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生条件となっている(±)。

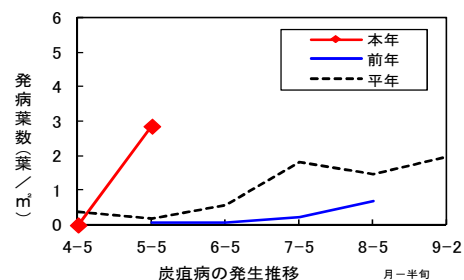
#### (3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、二番茶の萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、降雨前の防除効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p7の内容を確認の上、適切に実施する。(以下の病害虫についても同様)



### 2 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生葉率 0.3% (平年6.4%、前年15.1%)

50葉当たり虫数 0.1頭 (平年12.8頭、前年17.6頭)

発生ほ場率 14.3% (平年50.3%、前年66.7%)

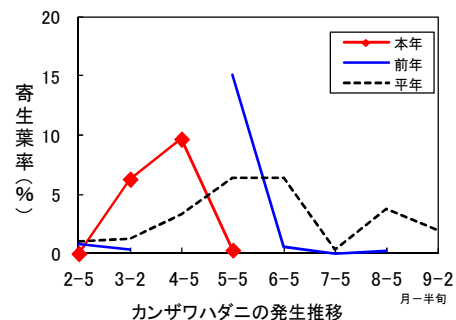
イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生条件となっている(±～+)。

#### (3) 防除上の注意

ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(一)。

たたき落とし虫数 0.8頭(平年 6.0頭、前年 0.7頭)

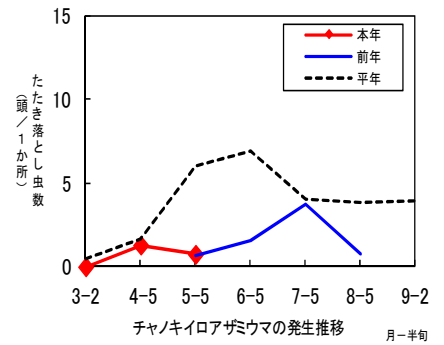
発生ほ場率 100%(平年 82.9%、前年 66.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上の注意

ア 平坦地ではやや多発している茶園も見られることから、発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

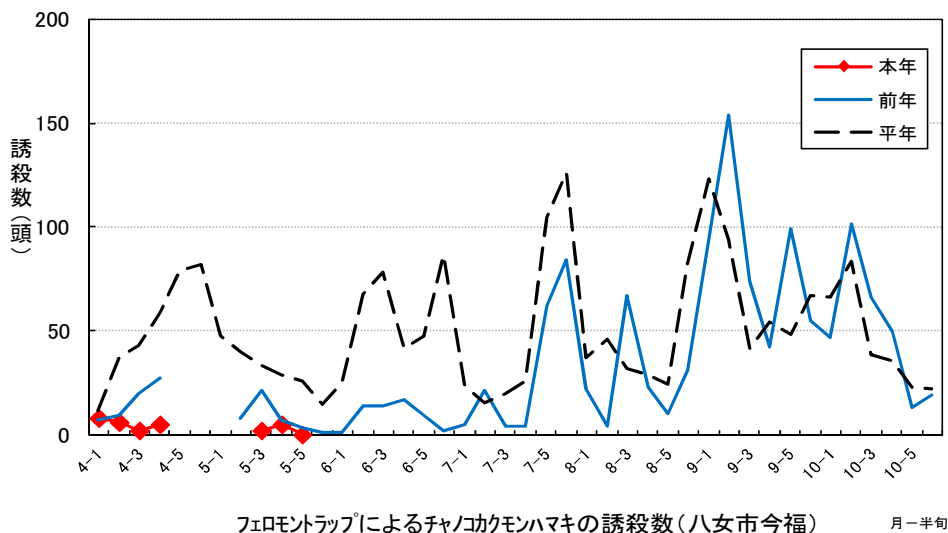
イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



#### 【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
もち病	並	並	やや多	一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、二番茶の萌芽から1葉期までに防除を行う。
チャノミドリヒメ ヨコバイ	並	並	並	発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャノコカクモ ンハマキ	並	やや多	やや多	第1世代成虫の発蛾最盛期は、6月中~下旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。
チャトゲコナジ ラミ	やや少 (前年比)	—	やや少	チャトゲコナジラミは年3~4回発生し、防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。 一部山間地を除き、第1世代幼虫の防除適期は過ぎている。 第2世代幼虫の防除適期は例年7月下旬~8月始めであるが、高温によって早まる可能性もある。

※チャトゲコナジラミは平成24年頃まで発生の地域差が非常に大きかったので、平年比は未記入。



# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。  
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所